東京ジャーミイ金曜日のホタバ
2008年5月2日

信仰の自由と強制

ムスリムの皆様。被造物の中で最も誉れある存在である人間は、食べたり飲んだり休んだりといった肉体的な必要性とともに、信仰したり、崇拝行為を行ったりというような精神的な必要性を持っています。なぜなら人は、アッラーに崇拝行為を行うために創造されたのです。（撒き散らすもの章第 56 節）崇高なるアッラーは、あらゆるものを人間のために存在させられました。そして数え切れないほどの恵みを、人間に与えられました。

アッラーは、人間に、イバーダの義務を果たし、正しい行為を実践し、悪事から身を守り、そのようにして現世と来世における幸福を得ることができるよう、知恵、意志、良心、善悪の識別を与えられました。それにとどまらず、人間を最初に創られた時以来、導き者として、預言者と啓典を下されてきたのです。預言者たちは、人々を、イバーダ、罪から身を守ること、美徳、善行を施すこと、罪である言葉や行為、振る舞いを避けることへと導きました。ただし、人々にこれらを強制することはしませんでした。なぜなら崇高なるアッラーは、人に、様々な形での試練を与えられるからです。試練である、人の意志というものには、自由がある必要があります。崇高なるアッラーはクルアーンで、次のように仰せられておられます。「だから誰でも望みのままに信仰させ、また（望みのままに）拒否させなさい。」（洞窟章第 29 節）この自由の中において、信仰する者も、拒否する者も存在したのです。アッラーは人々に、信仰やイバーダを強制させられてはいないのです。なぜならこの教えには、強制はあってはならないからです。（雌牛章第 256 節）もし強制があったとしたら、この世には、信仰し、イバーダを行わない人は誰もいなかったでしょう。この真実についてアッラーは、以下のように仰せられておられます。「もし主の御心なら、地上の凡ての者は凡て信仰に入ったことであろう。あなたは人々を、強いて信者にしようとするのか。」（ユーヌス章第 99 節）

預言者たちは、人々に教えを強制するためではなく、教えを伝えるため、そしてそれを、言葉で、実践で説くため、遣わされたのです。「だからあなたは訓戒しなさい。本当にあなたは一人の訓戒者に外ならない。かれらのための、支配者ではない。」（圧倒的事態章第 21－22 節）と語られています。

親愛なるムスリムの皆様。信仰やイバーダが、アッラーの位階において承認されるためには、強制されることなく、自由意志のうちに、イフラースと誠実さをもってそれらを行うことが必要です。強制による信仰は、真の信仰ではありません。強制されて行うイバーダも、真のイバーダではありません。だから崇高なるアッラーは、教えにおいて強制することを禁じられておられるのです。

親愛なるムスリムの皆様。崇高なるアッラーは、人に、信仰やイバーダを強制することを禁じられておられるのと同様、信仰し、イバーダを行うことを望む人に対して妨げになることもまた、禁じられておられます。ムスリムとして私たちが負う義務は、教えを学ぶこと、実践すること、英知や訓戒によって人々に説くことです。

今日のフトバを、次の章句によって終えたいと思います。「善行をなす者は自分を益し、行をなす者は自分を損なう。」（フッスィラ章第 46 節）